

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/30

米5月雇用統計を意識しながら

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	豪第1四半期GDPに関心が集まる 予想レンジ: 85.10 ~ 87.90 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	➡	66円台が攻防の分岐点に 予想レンジ: 64.40 ~ 68.60 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	➡	上値が重い中、南アのGDPに注目 予想レンジ: 11.40 ~ 11.90 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD/JPY

## 豪ドル/円 5/23~27の主な推移



<b>5/23</b> Monday	前週末21日の格付け会社S&Pのイタリアの格付け見直し引き下げや、22日のスペインの地方選での与党敗北により、市場では欧州の債務不安の再燃が意識される中、中国の景気減速懸念による上海総合株価指数の大幅下落や、NY原油先物相場の下げ幅拡大を背景にリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は一時85.69円まで下げた(①)。
<b>5/24</b> Tuesday	時間外のNYダウ平均先物や原油先物相場の上昇を背景に、市場ではリスクを積極的に取る動きとなり、豪ドル/円は一時86.90円まで上昇した(②)。
<b>5/25</b> Wednesday	時間外のNYダウ平均先物が一時100ドルを超える下げとなり、また時間外の原油先物相場も下落すると、豪ドル/円は下落。合わせてギリシャのパパンドレウ首相辞任の噂や、ギリシャが今月にも解散総選挙に踏み切るとの噂により、ユーロが下落。豪ドル/円は株安・原油安に加え、ユーロ売り・円買いの動きも重なり、85.48円の安値をつけた(③)。
<b>5/26</b> Thursday	自民党の谷垣総裁が内閣不信任案を提出する方針を明らかにすると、本邦の政治混迷を嫌気した円売りにより豪ドル/円は86.93円まで上昇した。しかしその後、米新規失業保険申請件数の予想より弱い結果を受け、ドル/円の下げに連れて豪ドル/円は反落した(④)。
<b>5/27</b> Friday	米5月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値が予想よりも良かった事を受け、ドル/円の上昇に伴い豪ドル/円は86.95円まで上昇した(⑤)。ただ直後に発表された米4月中古住宅販売契約が予想を大きく下回ったことから、ドル/円は急落し、それに連れて豪ドル/円も値を下げた。

## 上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## AUD/JPY

## 今週の見通し

今週、豪州では重要な経済指標の発表が相次いで予定されている。その中でも6月1日に予定されている豪第1四半期国内総生産(GDP)に注目したい。本稿執筆時点での市場予想は前期比-0.3%、前年比+1.8%となっており、前回(前期比:+0.7%、前年比+2.7%)からの低下が見込まれている。予想を上回る結果となる場合、豪準備銀行(RBA)の早期利上げ観測が高まり、豪ドル/円は買いが強まることも予想される。しかし市場予想を下回り、年内の利上げ観測が後退するようだと、豪ドル/円は売り優勢となる場面も予想される。

そのほか、6月3日には米5月雇用統計の発表も予定されている。5月に入り米新規失業保険申請件数が40万件の大台を超えて推移するなど、米国の雇用は弱含みとなっている。今回、米国の雇用の停滞を示す内容となる場合、ドル/円の下げに連れて豪ドル/円も値を下げる展開が予想される。一方で雇用が力強い伸びを示す場合、豪ドル/円はドル/円の上昇に伴い値を上げる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ: 85.10~87.90 円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●AUD/JPY 5/27週足引値:86.53円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は5月中旬以降、概ね84円~88円でのこう着した展開が続き、チャート上では三角もち合い(5/27時点では、上限:86.72円、下限:85.85円)を形成。今後はローソク足が上下どちらかブレイクした方に次の相場の方向感が出るのが予想される。ただ、20日線が上値抵抗として機能しており、目先は下値を試す動きが先行する可能性がある。

ボリンジャーバンドは5/27現在、上限:88.35円~下限:84.82円と、上下のバンド幅は収縮傾向が続き、目先はレンジ相場が予想される。ただし、ローソク足がバンド上下のどちらかを押し広げる動きとなった場合、その方向にトレンドが出ることも考えられる。

移動平均は20日線(5/27時点では86.59円)が緩やかに下向きとなり、上値が重い。なお仮に20日線が60日線(同、85.79円)を下抜けるようだと、相場は下落トレンド入りの可能性が出てくる。

上値ポイントは①引値レベルで86.59円(20日線)、②87.54円(5/19高値)、③88.09円(5/11高値)~88.35円(バンド上限)であり、下値ポイントは①引値レベルで85.79円(60日線)、②84.30円(5/5安値)、③83.38円(3/17安値74.25円-4/11高値90.00円の値幅15.75円の1/2下押し)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# NZD / JPY

## NZドル/円 5/23~27の主な推移



<b>5/23</b> Monday	前週末21日の格付け会社S&Pのイタリアの格付け見直し引き下げや、22日のスペインの地方選での与党敗北により、市場では欧州の債務不安の再燃が意識される中、中国の景気減速懸念による上海総合株価指数の大幅下落や、NY原油先物相場の下げ幅拡大を背景にリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は一時64.05円の安値をつけた(①)。
<b>5/24</b> Tuesday	NZのイングリッシュ財務相は「NZドル高に緩和の兆しはない。NZ企業が自国通貨高に適應しつつある」と発言。市場ではNZドル高容認として受け止められ、NZドル/円は上昇した。加えて12時に発表されたNZ準備銀行(RBNZ)の今後2年間のインフレ見通しでは3.0%と、前回2月(+2.6%)よりも引き上げた事が好感され、NZドル/円は続伸。更に時間外のNYダウ平均先物や原油先物相場の上昇を背景に、NZドル/円は65.63円まで一段と上昇した(②)。
<b>5/26</b> Thursday	中国の政府系ファンドCICが、NZに対し60億ドルの投資を行うとの報道を手掛かりに、NZドル/円は66円台に乗せた。また15時前にNZ財務相が「CICがNZの債券に投資したとしても驚きではない」「NZは4年以内に中国への輸出を倍増させる計画」と発言。これを受けNZドル/円は続伸した(③)。
<b>5/27</b> Friday	NZ財務相が「中国以外にもNZ国債の購入を検討している国が複数ある」と発言。これをきっかけにNZドル買いが強まった。またNY市場では米経済指標の上ブレにより、ドル/円の上昇に伴いNZドル/円は一時66.51円の高値をつけた(④)。

### 上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

### 下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## 今週の見通し

先週はNZのイングリッシュ財務相のNZドル高是認ともとれる発言や、中国を始めNZ国債への投資を希望している国が複数ある事が伝えられたことで、市場ではNZドルの先高観が高まった。また30日早朝に発表されたNZ4月貿易収支は過去最大の黒字を記録し、NZドル/米ドルは1985年の変動相場制導入後の最高値を更新する場面が見られた他、NZドル/円も上昇した。ゆえに今週のNZドル/円は先週の地合いを引き継ぎ、上値を試す展開が先行する可能性がある。

ただ、気になる点としては、NZドル/円は4月につけた今年高値(66.71円)を前に足踏みが続いていることがあげられる。もし66円台での上値の重さが嫌気された場合、相場には高値警戒感が漂い、何らかのきっかけでNZドル/円が調整入りとなることも考えられる。

そのほか、6月3日には米5月雇用統計の発表も予定されている。5月に入り米新規失業保険申請件数が40万件の大台を超えて推移するなど、米国の雇用は弱含みとなっている。今回、米国の雇用の停滞を示す内容となる場合、ドル/円の下げに連れてNZドル/円も値を下げる展開が予想される。一方で雇用が力強い伸びを示す場合、NZドル/円はドル/円の上昇に伴い値を上げる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:64.40~68.60円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線  
〔ボリンジャーバンド〕  
+2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 5/27週足引値66.01円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は5/27には66.51円まで上昇し、4/6につけた今年高値(66.71円)に迫る場面が見られた。ただローソク足はバンド上限を押し上げるには至らず、上値の重さが気になる。今週は66円台での攻防の行方に注目したい。

ボリンジャーバンドは5/27現在、上限:66.26円~下限:62.59円と、バンド幅はほぼ横ばい。もしローソク足がバンド上限を押し上げる場合は一段高が予想されるものの、そうでなければバンド上限を超えた値動きは一時的となる可能性がある。

移動平均は20日線(5/27時点では64.43円)がそれまでの下向きでの推移から横ばいへと変化しており、下押しの際にはサポートとなることが予想される。また、その下は200日線(同、62.73円)が下値を支えていると見られる。

上値ポイントは①引値レベルで66.26円(バンド上限)、②66.71円(4/6高値)、③68.62円(5/27時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①65.54円(5/27安値)、②64.43円(20日線)、③62.54円(5/5安値)~62.73円(200日線)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

# ZAR/JPY

## ランド/円 5/23~27の主な推移



<b>5/23 Monday</b>	前週末21日の格付け会社S&Pのイタリアの格付け見直し引き下げや、22日のスペインの地方選での与党敗北により、市場では欧州の債務不安の再燃が意識される中、中国の景気減速懸念による上海総合株価指数の大幅下落や、NY原油先物相場の下げ幅拡大を背景にリスク回避の動きが強まり、ランド/円は一時11.60円まで下落した(①)。
<b>5/24 Tuesday</b>	南アフリカ4月生産者物価指数は前年比+6.6%となり、事前予想(+7.0%)を下回る結果となるも市場での反応は薄く、ランド/円はほぼ無反応であった(②)。
<b>5/25 Wednesday</b>	時間外のNYダウ平均先物が一時100ドルを超える下げとなり、時間外の原油先物相場も下落すると、ランド/円は下落。また、ギリシャのパパンドレウ首相辞任の噂や、ギリシャが今年にも解散総選挙に踏み切るとの噂によりユーロが下落。ランド/円は株安・原油安に加え、ユーロ売り・円買いの動きも重なり、11.59円の安値をつけた(③)。
<b>5/26 Thursday</b>	自民党の谷垣総裁が内閣不信任案を提出する方針を明らかにした事で、本邦の政治混迷を嫌気した円売りを背景にランド/円は11.74円まで上昇した(④)。しかし米新規失業保険申請件数が予想より弱い結果となり、ドル/円の下げに連れてランド/円も11.60円まで反落した。
<b>5/27 Friday</b>	米5月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値の上ブレを受け、ドル/円の上昇に伴いランド/円は11.73円まで上昇した(⑤)。ただ直後に発表された米4月中古住宅販売成約が予想を大きく下回り、ドル/円の急落に連れてランド/円も値を下げた。

### 上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

### 下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今週の見通し

今週は31日に、南アフリカ第1四半期国内総生産(GDP)の発表が予定されている。本稿執筆時点での市場予想は前期比年率+4.2%と、前回(+4.4%)からの低下が見込まれている。もし、GDPが4%の大台を割り込むなど予想を大きく下回る場合、同国経済の成長鈍化観測からランドが弱含む場面も予想される。現在の市場ではギリシャを始めとした欧州の債務不安や米国の景気減速懸念により、リスクを積極的に取る動きは後退しており、予想を大きく上回らない限りランド/円の上昇は限定的となる可能性もある。

そのほか、6月3日には米5月雇用統計の発表も予定されている。5月に入り米新規失業保険申請件数が40万件の大台を超えて推移するなど、米国の雇用は弱含みとなっている。今回、米国の雇用の停滞を示す内容となる場合、ドル/円の下げに連れてランド/円も値を下げる展開が予想される。一方で雇用が力強い伸びを示す場合、ランド/円はドル/円の上昇に伴い値を上げる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:11.40~11.90円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●ZAR/JPY 5/27週足引値:11.65円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は5月に入り20日線に上値を抑えられ、下落トレンドが続いているが、先週は11.60円前後では底堅さを見せる一方、11.80円付近では上値の重さが目立ち、相場は方向感を失いつつある様子。ローソク足が20日線を下抜け、上値は重いと見られるが、相場はレンジの様相も帯びており、11.60円と11.80円のどちらか抜けた方に、次の相場の方向感が出る可能性がある。

ボリンジャーバンドは5/27現在、上限12.21円～下限:11.40円と、バンド幅は縮小。目先の相場は方向感が薄いと見られ、ローソク足がバンド上下を押し広げる動きとならない場合、バンド上下を超えた値動きは一時的となる可能性がある。

移動平均は20日線(5/27時点では11.81円)が60日線(同、11.99円)や200日線(同、11.88円)を下抜けており、相場は先安観が漂う。目先は下値を試す動きへとつながりやすく、上値は重そうである。

上値ポイントは①11.81円(20日線)、②11.99円(60日線)、③12.21円(バンド上限)であり、下値ポイントは①11.59円(5/25安値)、②11.40円(バンド下限)～11.43円(5/27安値)、③11.28円(3/17安値10.50円～4/8高値12.84円の値幅2.34円の2/3下押し)である(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (5/30~6/1)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/30	—		ロンドン休場(スプリング・バンクホリデー)、米国休場(メモリアルデー)		
(月)	07:45	○	(NZ) 4月貿易収支	+4.64億NZD	—
	21:30	○	(加) 3月GDP [前月比]	-0.2%	+0.2%
	21:30	◎	(加) 第1四半期GDP [前期比年率]	+3.3%	+4.0%
	21:30		(加) 第1四半期経常収支	-110億CAD	-30億CAD
5/31	08:30		(日) 4月失業率	4.6%	4.7%
(火)	08:30		(日) 4月有効求人倍率	0.63	0.62
	08:50		(日) 4月鉱工業生産・速報・確報 [前月比]	-15.5%	+1.9%
	08:50		(日) 4月鉱工業生産・速報・確報 [前年比]	-13.1%	-12.8%
	10:30		(豪) 4月住宅建設許可件数[前月比]	+9.1%	—
	10:30		(豪) 第1四半期経常収支	-72.99億AUD	—
	16:55	○	(独) 5月失業者数	-3.7万人	-3.0万人
	16:55	○	(独) 5月失業率	7.1%	7.0%
	18:00	◎	(ユーロ圏) 5月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.8%	+2.8%
	18:00	○	(ユーロ圏) 4月失業率	9.9%	9.9%
	18:30		(南ア) 第1四半期GDP [前期比年率]	+4.4%	+4.2%
	19:00		(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (4月27日~)[月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 4月貿易収支	+10億ZAR	-13億ZAR
	22:00	◎	(加) 加中銀政策金利発表	1.00%	—
	22:00	○	(米) 3月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.33%	-3.50%
	22:45	◎	(米) 5月シカゴ購買部協会景気指数	67.6	63.0
	23:00	○	(米) 5月消費者信頼感指数	65.4	66.4
6/1	10:30	◎	(豪) 第1四半期GDP [前期比]	+0.7%	—
(水)	10:30	◎	(豪) 第1四半期GDP [前年比]	+2.7%	—
	17:30	◎	(英) 5月PMI製造業	54.6	54.3
	17:30		(英) 4月消費者信用残高	+1億GBP	+3億GBP
	17:30		(英) 4月マネーサプライM4・速報 [前年比]	-1.1%	—
	21:15	◎	(米) 5月ADP全国雇用者数	17.9万人	17.8万人
	23:00	◎	(米) 5月ISM製造業景況指数	60.4	58.0
	23:00		(米) 4月建設支出 [前月比]	+1.4%	+0.4%

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## 経済指標カレンダー (6/2～3)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/2	—		<b>チューリッヒ休場(キリスト昇天祭)</b>		
(木)	10:30	○	(豪) 4月貿易収支	17.40億AUD	—
	10:30	○	(豪) 4月小売売上高 [前月比]	-0.5%	—
	17:30	◎	(英) 5月PMI建設業	53.3	54
	21:30	◎	(米) 5/28までの週の新規失業保険申請件数	42.4万件	—
	21:30		(米) 第1四半期単位労働費用・確報値 [前期比]	+1.0%	+0.8%
	21:30		(米) 第1四半期非農業部門労働生産性・確報値 [前期比]	+1.6%	+1.8%
	23:00		(米) 4月製造業受注指数 [前月比]	+3.0%(+3.4%)	-0.8%
6/3	07:45		(NZ) 4月住宅建設許可 [前月比]	+2.2%	—
(金)	17:30	◎	(英) 5月PMIサービス業	54.3	—
	21:30	◎	(米) 5月非農業部門雇用者数	+24.4万人	+19.5万人
	21:30	◎	(米) 5月失業率	9.0%	8.9%
	23:00	◎	(米) 5月ISM非製造業景況指数	52.8	54.3

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。